平成25年度　第6回遺跡見学会
平成25年11月30日（土）

台地の集落と埋もれた谷

さいたま市 大木戸（おおきど）遺跡

赤く焼けています。

硬砂を利用した炉跡？

硬砂を掘り込んだピット

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、大宮西部特定土地区画整理事業に先立ち、さいたま市西区指扇の大木戸遺跡を発掘調査しています。

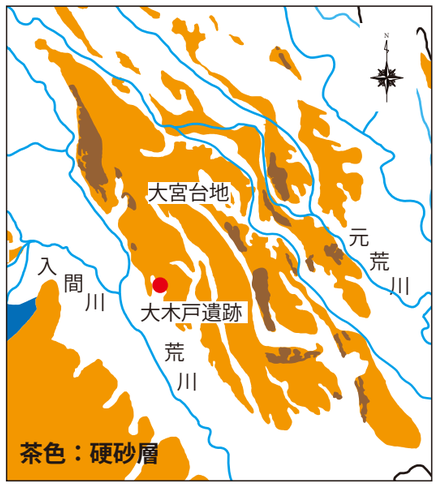
大木戸遺跡は、滝沼川の低地に面し、西側に張り出す台地上に営まれた縄文時代から弥生時代の集落遺跡です。今回の調査では、台地上から縄文時代後期（約 4000 年前）の竪穴住居跡、谷部から多くの土器が見つかっています。また、谷の斜面では、縄文時代の人々が「硬砂（かたすな）」層を利用した生活の痕跡も見つかりました。

主催：公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：埼玉県教育委員会
後援：さいたま市教育委員会

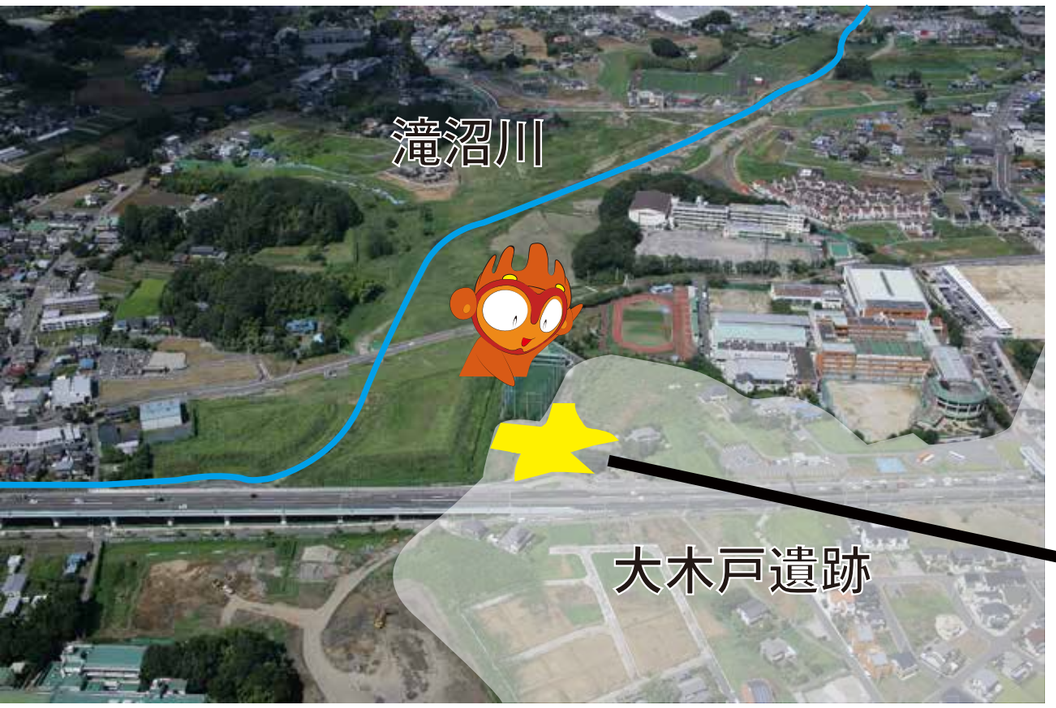
「硬砂（かたすな）」層とは？

大宮台地には「関東ローム層」とよばれる火山灰などが長い年月をかけて積もった土が厚く堆積しています。関東ローム層は土の特徴や堆積した期間によって複数の地層に分かれます。その中でも「硬砂層」は、ローム土（いわゆる赤土）とその下にある砂層との間にみられる地層で、大宮台地に特有のものです。

縄文時代の貝塚では、硬砂ブロックに着生（ちゃくせい）したカキが出土している例があり、カキの着床材（ちゃくしょうざい）にも利用されていたと推定されています。また、古墳時代の横穴式石室の石材や古代の住居跡のカマドなどにも使われるなど、古くからさまざまな形で利用されてきたことがわかっています。硬砂は砂が固まったもので、とても崩れやすいことが特徴です。硬砂層はさいたま市の他に、蓮田市や北本市でも確認されています。



大宮台地と硬砂層の分布



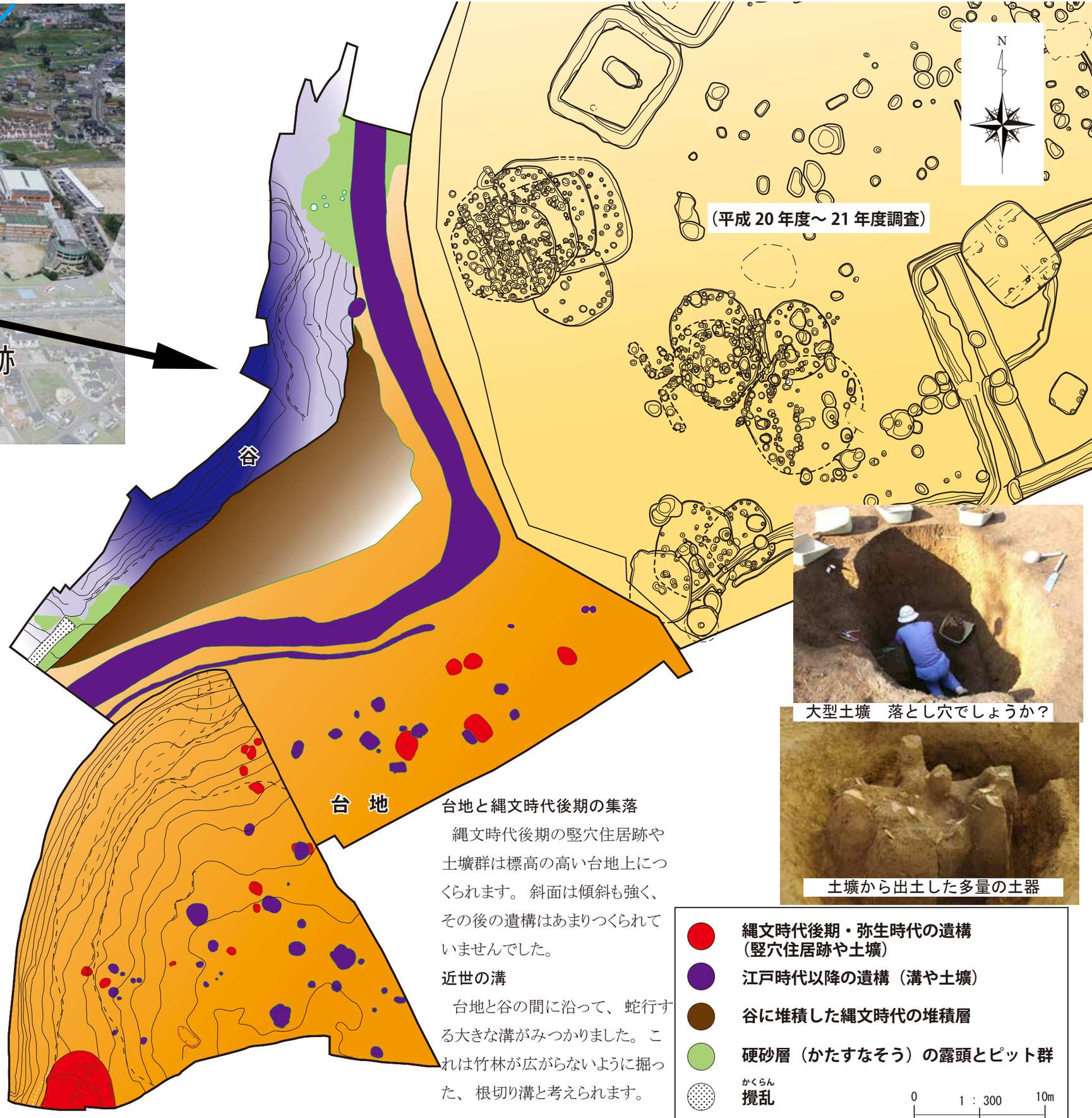
堆積層から出土した土器類

縄文時代後期の堆積層と谷

谷を埋めた土には縄文時代後期の土器がたくさん埋まっていました。この堆積層は何層にも重なっていることから、谷が長い時間をかけて埋まっていったことがわかります。

谷は現在でも水が湧きだしており、縄文時代の人々はこのような水場の近くに住まいを構えたのでしょう。

台地に営まれた竪穴住居跡（縄文後期）



大型土壙　落とし穴でしょうか？

土壙から出土した多量の土器

台地と縄文時代後期の集落

縄文時代後期の竪穴住居跡や土壙群は標高の高い台地上につくられます。斜面は傾斜も強く、その後の遺構はあまりつくられていませんでした。

近世の溝

台地と谷の間に沿って、蛇行する大きな溝がみつかりました。これは竹林が広がらないように掘った、根切り溝と考えられます。

- 縄文時代後期・弥生時代の遺構（竪穴住居跡や土壙）
- 江戸時代以降の遺構（溝や土壙）
- 谷に堆積した縄文時代の堆積層
- 硬砂層（かたすなそう）の露頭とピット群
- 攪乱（かくらん）

0　1：300　10m